

松波淳一氏による講演会を開催しました。

11月23日（木・祝）、資料館2階交流学習ルームにおいて、元イタイイタイ病弁護団の松波淳一氏をお迎えして、『神岡鉱山からのカドミウム排出とその被害の歴史』と題しての講演会を開催し、患者家族や弁護団関係者など約70名が参加されました。

講演会では、松波氏がスライドに映した当時の新聞記事や神岡鉱山の地図、診察を受ける患者の写真などを紹介しながら、神岡鉱山の歴史やイタイイタイ病の症状、カドミウムが原因と特定されるまでの経緯など詳しく説明され、参加者は真剣に耳を傾けていました。

参加者のアンケートからは、イタイイタイ病患者の救済等に深く携わってこられた松波氏のご苦勞への尊敬の念や、改めてイタイイタイ病の教訓を後世へ語り継いでいくことの大切さを感じたなどの意見や感想が多くありました。

今回の講演会を通して、イタイイタイ病の恐ろしさは勿論のこと、被害者の救済や環境の克服が多くの先人の努力の上にあることを改めて確認し、今後、二度と悲惨な公害を引き起こしてはいけないという思いを会場の参加者とともに強くいたしました。

資料館では、今後もイタイイタイ病の教訓をしっかりと後世に伝えていくために、工夫を凝らした企画を行ってまいります。



松波淳一氏の講演を熱心に聴いている参加者



質疑応答の様子

シンガポールの中学生、イタイタイ病や環境と健康の大切さについて学ぶ。

11月10日(金)、シンガポールのSt. マーガレット・セカンダリースクール(中学校)の生徒ら21名が来館されました。これは、婦中地区少年少女海外派遣事業の一環によるもので、昨年を引き続き5回目の来館となります。

生徒らは、最初に若林カズ子氏の語り部講話を通訳を介して聴講し、患者であった嫁ぎ先のお婆さんの闘病生活の様子などのお話を通して、悲惨な公害を二度と引き起こしてはならない、後世にしっかり伝えていかなければならないという思いが、言葉の違いはあるものの生徒らにはしっかりと伝わっているようでした。

その後、展示コーナーを見学し、特にエントランスでの衛星写真を使用している神岡鉱山や病気の発生地域についての説明に、生徒らはイタイタイ病について一層理解を深めていました。

このように、資料館はイタイタイ病の教訓を海外へ発信するという重要な目的を持っていることから、海外からの来館者の受け入れやそれを支援する方々への協力を今後も続けていきます。



若林カズ子氏の語り部講話



展示見学をしている生徒ら